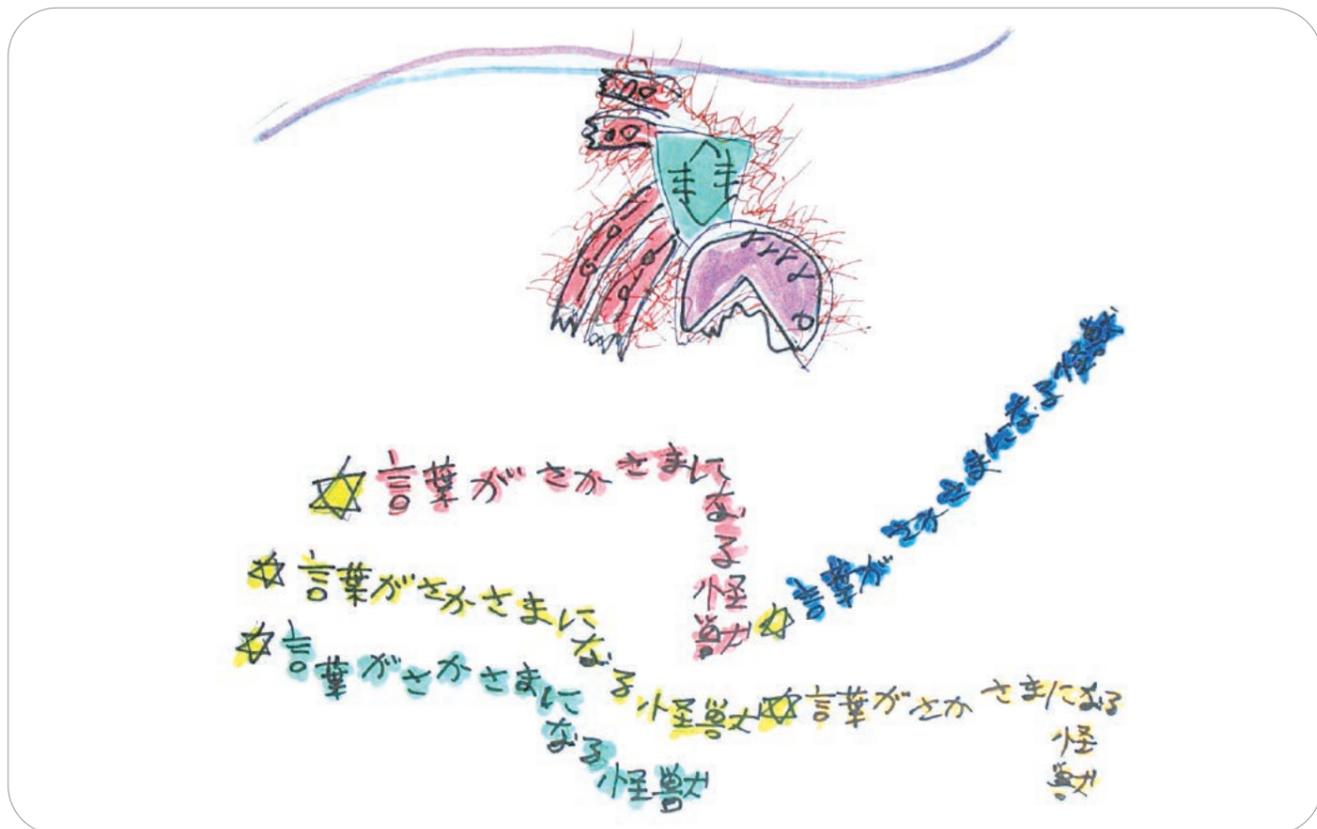


生存学研究所

Institute of Ars Vivendi



「言葉がさかさまになる怪獣」石井雄一氏



「障老病異」を基軸に生存をめぐる課題を研究・交信し 「生存学」を構想・提言・実践するグローバル拠点を目指す

立命館大学生存学研究所（前身は生存学研究センター：2018年度まで）は2007年度文部科学省グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点の採択を受け、設立されました。5年間のプログラムとして「生存学」創成拠点では、大学院先端総合学術研究科と人間科学研究所が基幹となり、教員・院生・研究員が組織を超えて連携し、研究・教育活動を展開してまいりました。今後はこうした実績を踏まえて「生存学」を構想・提言・実践しつつさらなる展開を行う国内の中核的研究拠点となります。また、海外研究者との連携を強め、グローバルなハブ機能をもった拠点として国内外での「生存学」の交信を目指します。



主な活動内容

- 「障老病異」を基軸とし、4つの学問的課題群としてさらなる飛躍を目指します。具体的には、①生存の現代史、②生存のエスノグラフィ、③生存をめぐる制度・政策、④生存をめぐる科学・技術、です。この4つの課題群を交差させつつ展開し、研究会、ワークショップ、国際共同研究会等を開催してまいります。
- 研究成果を様々なメディアを通じて発信します。紀要『立命館生存学研究』、電子ジャーナル Ars Vivendi Journal の発行、研究成果のウェブサイト、SNS、メールマガジンによる多言語発信などを行います。
- 患者会・障害者団体発行の機関誌など、当事者の活動に関する資料のアーカイブを行い、その蓄積を研究所の活動に反映させます。
- アーカイブを生かしつつ、障害や病をもつなどの当事者が参加する研究交流・社会連携活動を実施します。
- 院生、PDなど若手研究者が運営するプロジェクトとの連携した研究活動・社会活動を推進します。
- 生存学関連分野の先端領域において、国内外の研究者や患者会・NPO等との共同研究、競争的資金の獲得、官民からの研究調査受託等を推進し、社会的提言と実践を目指します。

■ 研究所としての活動



「生存学」にかかわる多様な「障老病異」をめぐる研究課題とその現場を紹介するブックレットを刊行



若手研究者の「生存学」の推進に関わる学術図書を表彰し、さらなる研究の発展を奨励する「生存学奨励賞」の実施



アジアにおける国際研究交流「障害学国際セミナー」の開催



立命館生協ブックセンター「ふらっと」にて、「生存学フェア」開催



立命館大学朱雀キャンパスでの車いすを用いたバリアフリー度実証実験

主な研究テーマ

- 東アジア地域における障害学に関する調査・研究
- アジア地域の精神障害者による自助活動や社会運動についての研究
- エスノグラフィの手法を用いた「当事者」から多角的に広がる関係についての検討
- ヴァルネラビリティの多義性をめぐるフェミニスト・アプローチ
- 当事者活動に関する資料のアーカイブと社会連携
- ダイバーシティ社会を実現するテクノロジーの社会実装
- アクセシビリティの実態調査と産学連携
- COVID-19など感染症対策と社会的諸問題の検討



研究所長：大谷 いづみ（産業社会学部 教授）
主な研究拠点：衣笠キャンパス
お問い合わせ：立命館大学 研究部 衣笠リサーチオフィス内 生存学研究所事務局
TEL: 075-465-8475 FAX: 075-465-8245 〆: ars-vive@st.ritsumeik.ac.jp <http://www.ritsumeik-arsvi.org/>